



われら安し われら正し われら強し

校長室だより

坂井市立春江小学校 平成29年12月1日発行 第14号 【6年生が中学校体験】



11月29日(水)に児童会主催の「ありがとう集会」では、読み聞かせをしてくださる方、交差点などで登下校の見守り活動をして下さっている方、昼休みに「子どもサロン」を開いてくださる方々をご招待して、感謝の気持ちをあらわしました。



22名のお客様をお迎えして特技の発表やお礼の言葉、記念のメダル贈呈やゲーム、歌で交流しました。集会委員会のメンバーはこの日のためにたくさん準備し、立派な司会進行ぶりでした。子どもたちとのふれあいのお客様も笑顔いっぱいです。インフルエンザの流行のために体育館に出られなかった学級でも、スマホからの生中継を教室のテレビで見ながら参加。外は寒いけれど、心の中はほかほかと温くなった集会でした。

ICT技術といえば、11月半ばに福井県教育総合研究所と遠隔テレビシステムを通して3年生理科の授業をしました。研究所の理科専門の先生方が立派な実験装置を使って光の屈折実験をする様子をSKYPEで見せていただきました。スモークの入った空間を通った光がレンズで屈折する様子がハッキリとわかり、子どもたちからはその瞬間「すごーい！」という声があがりました。子どもたちからの質問にも即時に答えてくださるなど、研究所の最先端技術を活用した素晴らしい授業でした。



11月16日（木）に就学時健診がありました。平成30年度の新一年生は、現在のところ88名が入学予定です。これまでも本校の1年生と交流はあるものの、当日はやや緊張した面持ちで保護者の方に付き添われて健診を受けました。学校からは1年生の生活やきまり、学校生活に必要なものなどを説明させていただきました。

さて、その際に開催した保護者対象の講演会で、カウンセラーの徳山和美先生からお話しいただいた内容で印象に残ったことをいくつか簡単にご紹介します。人生の基盤をつくる小学校時代。子どもを守る立場の大人として、私自身大変勉強になりました。

○テレビやゲームが子どもの脳や感情に悪影響を及ぼすことを知っておくべき。

子ども部屋にテレビやパソコン、ゲーム機を置かないこと。それらを使う時間に制限を設けて、保護者と子どもで上手に利用するルールを決めましょう。

○発達に障害があるように見えても、実はゲーム機やスマホを離せば落ち着きます。

ゲーム脳になると前頭前野がいかれてしまいます。前頭葉はヒトの感情を司るところなので、ゲームづけになると人の気持ちがわからなくなって、気に入らないことが起きると相手を攻撃してしまいます。

○昼夜逆転してしまった子どもの生活リズムを元に戻すのは大変です。

夜、「早く寝なさい」というより、「明日の朝は6時半に起きよう」と声をかけましょう。朝早く起きるようになれば、夜も早く寝るようになります。

○子育てのはじめの10年間は母親でいましょう。

子どもの脳の成長を竹にたとえると、はじめの一節目は10歳頃。二節目は中学生の頃で、いわゆる反抗期。「思春期は第二のつわり」と言われるが、最初の10年間で大事にすれば第二のつわりは軽くなる。子どもが10歳まではしっかり母親でいましょう。子どもが小さいうちほど大人の都合は後回しにしませんか。

近年、テレビやゲーム、パソコンやスマートフォンなどの悪影響から子どもたちを守ろうと、いろいろな講演会が実施されています。本校でも、10月のオープンスクールでSNS講習会があり、その危険性や安全な使い方について親子で聞きました。春江中学校区では、4つの小学校と春江中学校の全てのご家庭で使っていただく『スマートルール春江』も作成しました。まずは大人がその危険性を知り、大人と子どもが使い方のルールを一緒に考えることが、子どもたちを犯罪や危険から守る砦だと言われています。ゲーム依存症にさせないように、ゲーム本来の楽しみ方をお子さまに教えましょう。今からでも遅くはありません。

夜はぐっすり寝て脳をリフレッシュ。朝日を浴びて目を覚まし、朝食でエネルギーを充填してから学校へ！この当たり前のことができれば子どもたちの心も、体も、頭もきっと健康でいられます。

